決算カードの見方

①実質単年度収支（その年だけの影響を考慮した収支）

簡単に説明すると、その年の歳入－歳出の額から、前年度から繰越した額、既に翌年度の財源となった額、貯金を財源とした額等を除いた収支です。

令和７年度は歳入－歳出が黒字であっても、貯金を崩した額を除くと実質は赤字であることが分かります。

②ラスパイレス指数

国家公務員の給料を１００とした場合の給与水準を示す指標です。

③決算額と一般財源

決算額では、国・県などからお金がもらえるものも含まれています。市が単独で行う事業等については、一般財源の覧をご確認ください。

経常一般財源は、一般財源のうち臨時の事業等を除いた経常収支比率の計算に用いられる金額です。

④経常収支比率

市に入ってくる定例的な収入（税、国県支出金、使用料など）のうち、どれくらいが定例的な支出（人件費、道路や公共施設の維持管理費、福祉サービスにかかる費用、借入金の返済など）に使われているかを示す割合です。

この割合が高いほど、新たな投資（新たな市民サービスなど）に使えるお金の余裕が少なくなり、財政運営の自由度が小さくなることを意味します。

＜令和７年度と平成２８年度の比較＞

収入増（１１億円余）に対して支出増（４５億円余）となり、３４億円余の一般財源が減少している

【内訳】（一般財源金額を記載。項目は経常一般財源に金額のあるもの。）

収入	令和　７年度の経常一般財源	２０，１８４，６５１千円…⑤
	平成２８年度の経常一般財源	１９，０７２，４４４千円…⑥
	差（令和７年度－平成２８年度）	１，１１２，２０７千円

支出　　単位：千円

	令和７年度…⑦	平成２８年度…⑧	差（Ｒ７-Ｈ２８）
人件費	4,965,057	3,196,590	1,768,467
扶助費	2,919,226	2,165,462	753,764
公債費	1,122,813	1,231,787	▲108,974
物件費	5,798,881	4,616,653	1,182,228
維持補修費	281,213	326,455	▲45,242
補助費等	6,541,285	3,908,579	2,632,706
繰出金	1,965,312	3,549,227	▲1,583,915
合　計	23,593,787	18,994,753	4,599,034

◎額の変動が大きい項目の要因

＜人件費＞

市長・議員の報酬、職員の給与や退職金、各種審議会の委員報酬などです。

令和２年度から法律の改正により、会計年度任用職員（非正規職員）の給与と賞与（期末手当）が加わるようになりました。令和元年度以前は、人件費には含まれていませんでした。加えて、令和６年度から会計年度任用職員の賞与（勤勉手当）が支給されるようになりました。

＜物件費＞

委託料、消耗品費、燃料費、光熱水費などです。

物価高により、費用全般が値上がりをしています。

＜補助費等＞

民間企業・住民組織などへの助成金や衣浦衛生組合などへの負担金、公営事業への繰り入れなどがあります。令和２年度から下水道会計が独立しました。令和７年度は、１７億２千万円程、下水道会計へ支出しています。

下水道会計以外の負担金、繰り入れの増加が大きい項目は以下のとおりです。

病院事業への繰り入れ　　１億６千万円程増加

衛生組合への負担金　　３億５千万円程増加

衣浦東部広域連合への負担金　１億６千万円程増加

＜繰出金＞

他会計や基金へ支出する経費です。

平成２８年度は、下水道会計が特別会計であったため、繰出金に計上されています。平成２８年度の下水道会計への繰出金の額は、１４億９千万円程です。